我が街の記念碑 モニュメント 40

小河内ダム

奥多摩湖バス停徒歩6分

【西多摩・大工・藤原俊男記】小河内ダムは奥多摩の観光スポットです。重力式のダムで高さ149m、長さは353mあります。蓄えられた水は発電に利用されたのち、多摩川に放流されます。

小河内ダムにゆかりのある方が西多摩には沢山います。私の父もダム工事に携わった一人で、当時間組の代表名義人だった山本英一氏（私の父の伯父にあたる）を頼って戦後岡山から出てきました。昭和13年に起工され、現場近くの隠道工事は清水建設が行ない、戦前に完成。戦争で中断しましたが、戦後に本体工事が再開。国道側を間組、向う岸を西松建設が受注しました。

平地も道路もほとんどない場所で、まず資材を運び上げるクレーンの据付けの基礎工事でダムサイトの岩盤を大きく削り取る必要がありました。当時は重機などなく、ダイナマイトによる発破と手掘りで工事が行なわれました。掘った土砂はトロッコで運び出し、トラックに積み込みましたが、人工代はトロッコ1杯で1人工だったそうです。

ダムの完成は昭和32年で、19年間余の期間と約150億円の総工費を要しました。ダム周辺には公園が整備され、展望塔（コロナ禍で現在閉鎖中）や工事中に亡くなった87人の方の慰霊碑、旧小河内村の600戸3000人の方の移転を記した歌碑、工事で使われたコンクリートバケットの展示などがあります。

展望塔内には小河内ダムの歴史や建設当時の写真（父の藤原浩介が撮ったもので、私が奥多摩町に寄贈したもの）が展示されています。

工事中のダム全景（昭和26年・藤原浩介氏撮影）

父も工事に参加して
発破と手掘りで作ったダム

さくらさくら

何様

連日記者会見を開きコロナ感染拡大防止のため国民に自粛を強く要請してきた日本医師会の中川俊男会長は、まん延防止等重点措置中の4月20日に都内で行なわれた自民党の自見英子議員の政治資金パーティーに、日本医師会幹部ら約100人とともに参加してひんしゅくを買った。

1カ月後発売の週刊誌では、「我慢のお盆休み」を国民に要請していた昨年8月に高級すし店で女性とデートしていたと報道された。

忘れえぬこと

父が見せた赤紙に沈黙
許せぬ憲法改正論

電気工事　磯 哲夫

1941年、私の家族は祖父母・両親・10歳の姉・6歳の兄・4歳の私・2歳の弟の8人家族でした。同年12月、日本は真珠湾を爆撃、多くの方々を犠牲にしました。日本国民も、この戦争で数多くの犠牲者を出しました。

翌年11月23日の夕食後、家族の前で父が、「来たよ」と赤紙を見せてくれました。祖父母も母親もしばらく無言の時が流れ、やっと祖母が重い口を開きました。「仕方がない、これから残された家族で頑張って行くしかない」と。

12月初旬、霜柱の立つ寒い朝、近所の方々が日の丸の小旗を持って家の前で待っていました。父は身支度を整え、「これから行って参ります。必ず元気で帰って来ます」と言って家を後にしました。

日増しに戦争は激しく、生活は苦しくなりました。さつま芋・ジャガ芋・その他食べられる物は何でも食べました。「東京も爆撃を受け焼け野原に。隅田川には死体が流されている」といった話を聞いて、父を心配するあまり母はかなりやつれていました。

広島・長崎に原爆を投下され、戦争で何千万人もの尊い命が奪われ、1945年8月15日に日本は無条件降伏。父親も24年に、兵役から7年ぶりに帰って来ました。でも戦争やシベリア抑留のことは亡くなるまで、一切口に出しませんでした。

政府・自民党は、憲法改正に躍起になっています。戦争で大勢の国民が悲惨で辛く悲しい思いをしていることを知りながら、改憲論を唱えることは許せません。

（板橋）

詰将棋

持駒　歩　歩

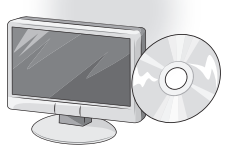
6	5	4	3	2	1	
				王		一
						二
			銀	歩		三
				桂	歩	四
						五
			桂			六

チョット一服（1036）

SNSで誹謗中傷が繰り返されて自殺に追い込まれたプロレスラーの木村花さんの一周忌を前に、母親の木村響子さんが「侮辱罪の厳罰化を早急に求める」ネット署名を始めた。花さんの件で悪質な書き込みをした男性に侮辱罪が適用されたが、過料9000円の略式命令が下されたに過ぎなかったという。

侮辱罪の厳罰化が必要だとされるほど、SNSで情報発信する場合に、悪意ある書き込みなどは許されないということだ。LINEいじめが学校現場で問題になり対応してきているが、これからは全世代に向けた情報モラル教育が必須となるだろう。

DVD ブルーレイ



シェフ　三ツ星フードトラック始めました

監督　ジョン・ファヴロー

全て失いかけたシェフの再生物語

軽快な包丁さばき、寸胴鍋から立ち上る湯気、美味しそうな匂いが漂ってきそうな調理場での仕込みシーンから始まるのは、2015年公開の米映画『シェフ　三ツ星フードトラック始めました』。

ロサンゼルスの一流レストランで総料理長を務めるカールは、この日やってくる有名料理評論家に向けて新作メニューを試作していた。が、頑固なオーナーの命令で結局定番メニューを出してこっぴどく叩かれてしまう。その酷評ブログがSNSで拡散されてることを知ったカールは、評論家に「もう一度店に来い」と対決を迫るが、またもオーナーに阻まれ対立。結局、店を辞める羽目に。評論家とのケンカが知れ渡り働き口もなくなったカールは、フードトラックで移動販売することを思いつくが…。

製作・監督・脚本・主演の4役を務めるのは、『アイアンマン』シリーズのジョン・ファヴロー。窮地に陥った父を応援する一人息子パーシーをエムジェイ・アンソニー、元妻イネスをソフィア・ベルガラが演じ、ダスティン・ホフマン、ロバート・ダウニー・Jr.、スカーレット・ヨハンソンら豪華ハリウッドスターが脇を固めている。

コロナ禍で苦境に立たされている飲食店の倒産件数が過去最高となるなか、フードトラック（移動式販売車）が急増しているらしい。「安い開業資金」で「感染リスクも低く」「作りたてを提供できる」とのことで、新しい飲食店のあり方として注目を集めているという。カールのような一流シェフの料理がフードトラックで味わえる日は、そう遠くないのかもしれない。